

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---

経済学部 2 回生 男子学生

私たち第4回研修訪問団は、ハワイにて、夢のような25日間を送りました。私の当初の参加目標は、言うまでもなく英語力全般、特に会話能力の向上にありました。なぜならば、私たち日本人は、よく言われるように、センター試験やTOEIC等の勉強を通して、文法や読み書き能力はそれなりに習得しています。しかし、英語を話したり聞いたりすることは、日本人の苦手とするところです。それだけに、朝起きてホストファミリーと会話をし、大学でネイティブの授業を受け、昼は街中で現地の人々と触れ合い、夜は再びホストファミリーと過ごす、という英語漬けの生活を送ることが出来たことは、とても刺激的なものでした。当然、私の英語コミュニケーション力は向上したと確信しています。

しかし、現地で生活を送る中で、私の目標は徐々に変化していきました。現地に行くまでは、英語を学ぶことが、私にとっての最終目標でした。しかし、現地に着いてからは、英語は、単なるコミュニケーションの道具にすぎないことに気づきました。私の目標は、その道具を用いて、自分自身を変えていくことへと変わっていきました。具体的には、英語を用いて、とにかくチャンスがあれば、知らない人とでも話すように貪欲に自分を鼓舞しました。日本にいるときの私は内向的で、人と話すことをあまり好まない性格でした。しかし、ハワイの人たちはとにかくフレンドリーで、知らない人同士でも、会話を通してすぐ仲良くなれます。今回の訪問で多くの人々と色々な場所で話し、日本に帰国してからも、連絡を取り合える友人を作ることができました。英語を用いて積極的にコミュニケーションをとることを通して、私のアイデンティティーは、内向き志向から外向的なものへと変わっていきました。日本に帰国してからも、ハワイで培った新たなアイデンティティーは大切にしていきたいと思っています。

ところで、このアイデンティティーの変容は、ハワイの人々との接触のみによってもたらされたものではありません。私の心を支えてくれる温かな存在が、それを可能としてくれました。まず、ホストファミリーは、私に愛を教えてくださいました。まるで家族のように、ではなく、本当に家族として私を愛してくれました。私も彼らを家族だと心から感じていました。別れの朝に流した涙は、彼らとの思い出と共に、私の大切な宝物です。そして、忘れられないのは、13人のかけがえのない友人たちです。皆それぞれが、素晴らしい個性、お互いを思いやる優しい心、誰も一人ぼっちにさせないという隠れた強い思いを持っているように感じます。全員で過ごした大学生活、全員で作った思い出のアルバム、全員でハワイのあちこちを旅した記憶、すべてが私の宝物です。日本に帰国すると、また全員ばらばらになってしまうけれど、心は一つだと信じています。そして、そう信じられるほど、本当に素晴らしい仲間たちでした。ホストファミリーや友人たちの温かな助けがあって初めて、私のハワイでの生活は最高のものとなりました。すべての人に感謝いたします。

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

経済学部 1 回生 男子学生

私が今回の語学研修に参加した目的はスピーキング能力の向上であった。がしかし、私が想像していた以上のことを経験し素晴らしいものを得られた。

まず始めに私は今回のプログラムの主に英語に関することについて書く。今回の研修で通ったUHでは、私たちは主にスピーキングとリスニングの練習をした。日本では中学（現在は小学校）から英語を学んでいるのにも関わらずスピーキングを出来る人はあまり多くなく、私たちも全員がそうであった。最初の週は授業中も静かで発言するものは限られていたのかもしれない。2週目になってそれを見かねた担任のレイチェルが本音を私たちのために述べてくれた。「あなたたちは高いお金を払ってわざわざ来ているのにもったいない。」と言ったレイチェルのメッセージが私たちの「文法を気にし過ぎて話せない」という苦手意識を変えてくれた。授業は簡単にも思えるが、本当に英語が上達していることが分かるほど効果はあった。全く知らないUHの学生に話しかけて話す、質問するという課題などユニークなものばかりで楽しみながら英語のスキルアップを図ることが出来た。最後の週には、日本とアメリカの教育現場における違いや原発など様々なことについてディスカッションをした。各々が自分が考えていることを英語で発信して、それについてまた意見を言ったりと日本ではなかなか出来ないよい練習であった。文法はむちゃくちゃかもしれないが、伝えようとする気持ちは全面に出ている授業風景は印象深い。また、自分が言いたいことを英語では上手く言えないことにもどかしさを感じ、さらに勉強した友達もいた。日本人同士が英語で会話するという事は、日本に住んでいると正直恥ずかしく感じるがそれに慣れるとさらに英語を使う時間が増えるのでお互いにいい刺激を与えることができた。そして私の場合はホストブラザーが日本人であったので、日本語で会話することもできたが、あえて彼とも英語で話すことを心がけた。彼は2歳下の高校生であったが、私よりも遥かに英語を話させたのでよい練習になったからである。日本にいるときは自分より年下の高校生が自分よりも話せると知ったら、英語で話したくないと感じたかもしれないが今回の研修がその意識を変えてくれたのか、全く抵抗はなく素直に受け入れることができた。今回の研修で明らかになった自分の問題点はたくさんあり、今後に生かすことができるものであったが、特にひどく感じたのは発音と語彙の少なさである。中学生の時から英語を学んできていたのに、「r」の発音が出来ないということに気がついた。それを日本にいたときは全く気がつかなかったというのがさらに問題である。語彙に関しては今までの自分の積み重ねがいかに少なかったのかということも改めて実感したいいい機会であった。勉学の科目としての「英語」ではなく、あくまで生活の中でのコミュニケーションのツールとしての「英語」であったので、必要となってくる単語は異なり、特にイディオムがよく使われている印象を受けた。約一ヶ月もいればよく使われる単語、イディオムを覚えることは難しいことではなく、今後また使えるので自分としては覚えておきたい。そして今回の研修で私たちが運良く経験できた数々の体験について書く。まず一つがボラ

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---

ンティアである。ホストマザーのモナさんに誘われてホストブラザーの高校の文化祭の前日準備を手伝ったのだが、このような機会は本当に珍しくなかなか出来ないことなのでモナさんには本当に感謝している。同じ高校に子供を持つ母親から生徒まで本当に多くの人との交流を楽しみながら、英語も勉強になりとてもいい経験であった。もう一つはある一人の日本人Kとの出逢いである。彼と出逢っていなければ、私たちも例年とそんなに変わらない語学研修になっていたであろう。KはUHの日本文化クラブ（JCC）のメンバーである。私たちのうちの一人がたまたま町でJCCのリーダーと出逢ったのがきっかけで、そのリーダーが交流の機会を設けてくれたのだが交流を仕切ってくれたのがKである。UHの学生はテスト期間中ということもあり、そのときはあまりたくさん交流をする時間がなかったのだが後日テスト終わりにココヘッドに登るイベントを作り、呼びかけてくれた。また彼の友達が主催のBBQにも招待してくれて、40人くらいの人達がいるその場で一緒に話したりバレーボールをしたり海で遊んだりと滅多に出来ない経験をする事ができた。他の日にも海へ行ったり、アイスを食べにいったりと現地の学生に混ざり生活をするという貴重な時間を過ごせた。とてもここには書ききれないくらい私たちは多くの人たちと出逢い、交流をすることができ、たくさん現地の友達を作ることも出来た。その多くはKが関わっていて、本当に彼には感謝をしている。

今回のこの語学研修を通じて私たちは自分から動く、恥ずかしがらないということが出来るようになった。本当に全ての出逢いに感謝したくなるような研修であった。

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---

経済学部 1 回生 男子学生

私がこのプログラムに参加しようと思った動機は、大学生活中に留学に行きたいと思っていたからなのですが考えるのみで行動にまったくうつせていませんでした。今回のプログラムに参加したのは英語の向上はもちろんのこと、積極的に何か行動を起こすことができるようになること（コミュニケーションなど）が目標でした。

プログラムの活動において印象に残っているのは、インターチェンジのハワイ大学生との交流やレイチェル先生といったマノアフォールです。インターチェンジの学生の一人キャメロンと仲良くなったのですが、彼は日本の漫画、ポップカルチャーに詳しく BLEACH、NARUTO、など週刊少年ジャンプに掲載されている私 4 の大好きな日本漫画が彼も大好きで、インターチェンジのトークテーマからそれて英語でそのことについて話し合っていました。英語で日本の文化について話すのはとても新鮮で自分の国の文化の素晴らしさを見つめなおすきっかけにもなったのでよかったです。レイチェル先生といったマノアフォールではハワイの自然の美しさと力強さを体感することができて感動しました。そのあとにみんなでアラモアナビーチにて各自持ち寄ったものを集めてランチを食べたのですがみんなで何を持ってくるのか前日から話し合っていたので、種類が豊富ですごくおいしかったし楽しかったです。

このプログラムに参加する前は英語を使うこと、英語を使って外国人の人々とコミュニケーションをとることにに対して少しおっくうに感じる部分もあったのですが、外国に滞在し異文化に触れることで英語というものの存在がよりいっそう自分に身近な存在になったというか、当たり前ツールとして使用できるようになったのは大きな進歩であったと思います。また文化の違いに戸惑うこともありましたがそれを当然のものにとらえ受け入れることができたのでグローバルコンピテンシーも身についたのではないかなと思います。

今回のプログラムに参加しハワイの人々の人柄に触れ積極的な自分に変わることができたとおもうので大学生のうちにもっと積極的に自分のやりたいことに取り組みたいです。今私は世界中のいろんなところを旅したいと考えているので、夏に台湾に行くのですが今回のプログラムで得た積極性とコミュニケーション力とグローバルコンピテンシーを生かして、素晴らしい体験を獲れるように今後とも国際共通語の英語の勉強に力を入れていきたいです。

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---



## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

経営学部1回生 女子学生

今回の語学研修は、私にとって初の海外渡航でしたので、生活や習慣、町の雰囲気、ハワイの人々など、日本との違いを自分の肌で感じて異文化に触れあえることを楽しみにしていました。

ホームステイは私にとって、本当に素晴らしい経験となりました。英語が聞き取れなかったり、伝えたいことをうまく英語で伝えることができず、もどかしい思いをしたこともありましたが、そのようなときは、2回言ってもらったり、ジェスチャーをしながら伝えたりしてお互いに理解することができました。私のホストファミリーには子どもが4人で毎日がとてもにぎやかで、いっぱい遊んですごく楽しかったです。

あちらで生活している中で日本との違いを一番感じたのは、ハワイの人々はとてもフレンドリーだということです。お店やバスを待っているときでもいろんな人が話しかけてきました。ホームステイ先でも、毎週末にはたくさんの友人が集まって一緒にディナーを食べていましたが、みんな親切でいろんな話をしてくれてとても素敵な時間でした。そして、帰るときには必ずハグをしてくれます。すごく温かい気持ちになりました。もうひとつ気づいたのは、ハワイは時間の流れがゆったりしているなということです。人々もゆったりとしています。街を見ても、歩くスピードは日本よりゆっくりで、急ぐために走っている人などほとんど見ることはありませんでした。私はハワイで生活していく中で、自分がすごくせつちだということに気づきました。

この研修でたくさんの出会いがありました。一緒にこのプログラムに参加したメンバーはほとんどの人たちが初対面でしたが、授業内でディスカッションをしたり、授業後にみんなでいろんな所に行ったりして、最後にはすっかり仲良くなっていました。ハワイ大学でも、週2回インターチェンジがあり、あちらの学生たちと交流することができました。大学生活や勉強のこと、趣味やハワイのことなどさまざまな話をして、私にとってはすべてが新鮮でした。ずっとハワイに滞在している日本人の学生の人たちとも出会い、一緒に山に登ったり、ビーチに行ったり、輪がすごく広がりました。

毎日友達や家族に囲まれてとてもにぎやかで楽しかったので、ホームシックになることはありませんでした。毎日が新しいこととの出会いで、いろんな経験をして充実していて、驚くほど一日が終わるのが早く、25日間というのは本当にあつという間でした。そして、日本に帰る日が近づくにつれて英語が少しずつですが分かるようになって、帰りたくないと思うようになっていました。もっと話せて、聞き取れるようになりたいという思いが強くなりました。日本に帰ってから頑張って英語を勉強し、今よりもっと上達してからまたハワイを訪れたいという思いが強まりました。今回の研修は本当に素敵な経験となりました。

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---



## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

経営学部2回生 女子学生

今回の研修に参加してたくさんの人と話すことができ、とても楽しく、また良い経験になりました。ホームステイ先の方や大学の先生・友達、バスの運転手、施設の受付、店員などの人達との会話するために英語を聞いて話すことが絶対必要になるという状況は英語を話す練習をするのにとっても良い環境でした。日本語の方が通じるという状況だとつい日本語を話してしまいがちですが、伝えたいから英語で話すという自然な流れで英語を話すことができたので英語が今までより身近なものになりました。しかし、相手の言っていることがなかなか分からなかったり自分の言いたいことが言えなかったりすることも多く、せっかく相手が伝えようとしてくれていたのに理解できなくてもどかしく、また申し訳なく感じることも多々ありました。今回の研修を通して、英語でも相手の言っていることをより正確に理解したい、自分の言いたいことをより正確に伝えたいと感じました。また、日常生活や普段の会話は相手の優しさによってなんとか成り立っていましたが、今の自分の英語力では仕事では全然使えないとも感じました。なので、これからも英語を使う練習を続けていきます。

授業も実際に英語を話す機会が多く面白かったです。先生も優しく親しみやすい雰囲気の方で、それぞれが感じたことを気軽に発言できる良い雰囲気の授業でした。それぞれが感じたハワイと日本との違いや、ハワイと日本での授業スタイルの違いなどを話した時はそれぞれの文化や根付いている考え方の違いを垣間見ることができて興味深く感じました。授業は8時半から11時半までだったので、平日の授業が終わってからでもいろいろな所に行くことができ、毎日楽しめました。また、授業以外でも学ぶことがたくさんありました。ホームステイ先の方もとても親切で、本当のおじいちゃん、おばあちゃんのように接してくれましたし、ハワイのことや人生において大切なことなどたくさん教えてくれました。特に、ホームステイ先のおばあちゃんが人に合わせてばかりではなく大切なことは自分で決めるようにと話してくれたことが一番印象に残っています。

私がハワイで出会った人達は親切でフレンドリーな人達ばかりで、研修に行く前よりもハワイのことが大好きになりました。たくさんのお出会いがあって充実した毎日でした。ハワイ大学の学生とも、インターチェンジの授業で話すだけでなく、兵庫県立大学の豊田先生が開いてくれたピクニックで一緒に話したり、仲良くなった人達と休みの日に海や山と一緒にいたりできて話す機会がたくさんありました。ハワイ大学の学生以外にもたくさんの人と出会ったり話したりもできて、本当に楽しい毎日でした。周りの人達がみんな温かく接してくれたおかげで、安心してたくさんのお話を学べたし毎日思いっきり楽しめたと思います。ホームステイ先の方や友達、先生方、ハワイで出会った人、この研修に携わってくれている人への感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。



## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---



## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---



## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

経営学部1回生 女子学生

このプログラムに参加する前は、英語が全然できないとか、ホームシックになるんじゃないとか、親しい友達がいなくて不安だとかつまらないことを考えていたけど行ってみると全然違った。

私がこのプログラムで得たことは何個かあって、まずは英語力。普段英会話をするところがないので分からなかったけど、自分には語彙力が足りなかった。良いように言えば「基本の会話は中学生の文法で通じる。」だが、これぐらいの力では自分の言いたいことを言おうと思っても言えないし、最後にはもっと色々な人と冗談を交えながら喋れるように語彙を増やしたいと思うようになった。そして毎日聞こうと思わなくても耳に入ってくるおかげで、speakingよりはlisteningの力がついたと思う。なので、このプログラムは初めての留学にぴったりだと思う。でも日本に帰ると英語なんて全く使わないから、英語で日記をつけたり近所の外大に行ってコミュニケーションをとったりしてさらに英語力を高めたい。

得たことは英語力だけではなく、自分自身の考え方も変わった。行く前はやりたくないなあと思うだけだとか、自分ひとりならやらないとか消極的だったけど、自分のやりたいことをやって、考えていることを話したり積極的になった。

これらの成長は同じような目標をもち、高い志がある研修団のみんなに恵まれていたこととJCCのみなさんとの出会いがあったからだ。日々お互いを刺激しあい過ごしやすい環境で過ごすことができた。JCCの計画力とそれを実行する力は日本で私たちの周りでは見ることがない。日本でももっとみんなで楽しみ、自分の意見を話せる場が必要だと思った。何かこういう場があるのなら是非参加したいと思う。また、ハワイ大学にはいろんな学生がいて自分の大学生活は狭い世界だと感じたし、みんなのようにもっと勉強に一生懸命になったり、好きなことに打ち込まなければならないと思った。

ハワイは良い人がたくさんいて時間の流れがゆっくりだ。自分はなんてせっかちなんだと思った。ホストファミリーや友達に会いに今度は観光で行こうと決めた。こういった出合いや感じることもあるから今度また違う国に短期留学してみたい。その国の文化に触れたりいろいろなものを見たり友達を作りたい。ホームステイのことや外国の雰囲気も分かったし私はもっと英語を学びたいと思っていることにも気が付いたから、今度の研修期間中は友達ともずっと英語で話すということを徹底したい。

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

理学部 2 回生 女子学生

私がこのハワイ大学の留学で学んだ大切なことは3つある。一つ目はホストファミリーから学んだことである。ホストマザーは熱心なクリスチャンで、何に対しても感謝と大きな愛をわすれないひとであった。私たちへの助言にも、ファミリールールにも、全てに愛があった。私の誕生日をお祝いしてくれたときに幸せですとお礼を言うと、彼女は「いいのよ、あなたの幸せは私の幸せでもあるんだから。」と微笑んで抱きしめてくれた。また、彼女は旦那さんをととても大事にされていた。きれいなお庭をほめると、「パパのお庭なのよ。」共に行った外食が楽しかったことを伝えると「パパがアイデアをだしてくれたのよ。」といつも旦那さんを立てていた。私は彼女の、周りの人々を包み込む大きな愛に感動し、彼女のような素敵な女性になりたいと思った。

2つ目は、笑顔が人の気持ちを幸せにするのは全世界共通であるということである。今回の滞在でいろいろな人と出会い、会話したが、やはり笑顔の多い人と話すのは楽しい。私はアメリカの女性にクールなイメージがあったので、アメリカでニコニコ話すのはどういった印象なのだろうと疑問に思っていたが、ある現地の女の子に「舞は笑顔で楽しそうに話すからすぐに打ち解けられたよ。」といわれ、とても嬉しかった。笑顔で目を見て話すと、明るい気持ちになれるのは皆同じなのだと再確認した。

3つめは、人とのコミュニケーションにもっとも必要なのは英語を流暢に話せることではないということである。私たち日本人は、外国語を話すことに対し異常なほどためらいがある。完璧な文章や発音で話すことができないことに劣等感を感じ萎縮する。私も、ハワイに着いて初めのころはそうであった。本心では言いたいことがあってもどうせうまく伝えられないからと言わずにいた。しかし、徐々に話すことに挑戦していった。クラスメイトの皆も意識が変わってきたように感じられ、クラスの雰囲気も積極的になってきた。その中でやっと英語を使いながらも自分らしく話すことが少しずつできるようになってきた。そんなときにハワイで暮らす学生たちとの出会いがあった。その中のひとりの日本人の女の子が、私が仲良くなろうと片言ながらも必死に伝えたいことを話していることに、「すごいよ、私は初めてここに来たとき、皆が何を言ってるかもわからなかったし、自分の思いを伝えようと努力もしなかった。舞はすごいよ、必死に伝えようとしてる、だからこっちも聞いてあげなきゃって思う。」と言ってくれた。人は認められると自信をもてるもので、彼女の一言が私の背中を強く押してくれた。そして、彼女達が片言の日本語で私に思いを伝えてくれたときに、コミュニケーションに最も大切なのは伝えようとする熱意であると確信した。

私のこの研修参加の目的は、視野を広げることであった。この研修が終わった今、視野を広げられたのはもちろん、心にも深みが出て、より価値ある人間へと近づくことができたと思う。これからもたくさん事を学んでいきたい。

最後になりましたが、訪問団のみんな、先生方、ホストファミリー、そしてずっと共に

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---

生活したパートナーのS、本当に感謝しています。ありがとうございました。

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

理学部2回生 女子学生

私の今回のホームステイプログラムの目標は、とにかく外に出て英語でたくさんの人とコミュニケーションをとることでした。

活動内容は、平日は午前は授業、午後は自由活動でした。

授業について、レイチェルは素敵な先生でした。彼女と話すのはとても楽しかったです。授業以外でも友達との会話は英語を使うように、しかし完璧な英語をしゃべる必要はないと彼女は言いました。文法に加え、発音も難しくて大変でしたが、自分の意思を伝えようと努力したのはすごく良い経験になったと思います。最初は緊張して黙り込んだりしましたが、ここまで来て黙っているのはもったいないと思い、自分から進んで発言もできるようになり、成長したなと思います。

インターチェンジのクラスも楽しかったです。インタビューやゲームを通して彼らが勉強していることや、なぜハワイが好きなのか、ハワイでやるべきことやハワイのいいところを沢山聞いてよかったです。また、彼らは皆、日本が好きだったので日本のいいところや風習も伝えました。ますます日本に興味を持ってくれたら嬉しいと思うと同時に、自分自身もっと日本を知りたいと思うようになりました。

宿題でも、多くの人と話せるようにと工夫がされていました。例えばカナダやアメリカ本土出身の人を見つけて都市の名前を聞いたり、サーファーと写真を撮ったりしましたが、自分から話しかけないとできないものでした。しかしハワイではロコも旅行者も皆明るく、私たちが話しかけても嫌がるどころか彼らも楽しんでいるように感じました。すごく良い宿題だったと思います。

午後の自由活動について、皆で昼食を食べたり、出かけたりしました。ハワイは食べ物もすごくおいしかったです。ワイキキの大通りは何回行っても飽きることがなかったです。露店の店員と仲良くなって一緒に写真を撮ったり、私の苗字が香川なので私の兄は某有名サッカー選手だよと冗談を言うまでになりました。

ホストファミリーと過ごす時間も楽しかったです。夕飯はほぼホストファミリーが作ってくれました。彼は料理上手で、毎晩おいしいご飯を作ってくれました。夕飯時に、今日の授業はどうだったか、放課後は何をしたかなど話しました。私は日本からカレーを持って行って、日本流の作ったのですが、おいしいと言ってくれて嬉しかったです。

休日はホストファミリーが、バスでは行くのが大変なところに車で連れて行ってくれ、充実した休日を過ごすことができました。平日は毎日遅くまで仕事で疲れているはずなのに私たちの相手をしてくれ、感謝しています。

参加前はハワイについてばかり知りたいたいと思っていましたが、日を追っていくごとにずっとたくさんの人と話したい、日本や私の事も知ってもらいたいと思うようになりました。そして、帰る直前になっても行きたいところやしたいことが見つかるようになり、参加前と比べてアクティブになったような気がします。

これからは、海外ボランティアにいつか参加することが私の目標です。

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---

環境人間学部 1 回生 女子学生

日本に帰ってきたことに実感がなくらいに、ハワイは自分が思っていた以上の場所だった。そして帰国した今、思っていた以上にハワイは自分にとってかけがえのない場所となっていた。ハワイのありとあらゆるところに思い出がつまっている。来ないバスを1時間以上待っていたバス停でさえ。1日1日、毎日が充実していた。良い意味で毎日忙しかった。今まで生きてきた人生で1か月間がこんなに充実していたことはなかったように思う。何度「終わってほしくない、まだハワイにいたい」と言ったことだろう。

ハワイの文化など日本にい続けていたらきっと知ることがなかったように思う。ハワイと日本の違いを感じるがあった。ハワイにいて逆に日本のことを考えることもあった。

授業は **Interchenge** の時間はコミュニケーション能力が試されたし、もっと時間が欲しいと感じた。私たちの授業を受け持ってくれた **Rachel** の授業も、もっと受けたいと感じた。私たちは、兵庫県立大学だけのクラスなので、外国の人とリアルな英語を話す機会は貴重である。だからこそ私は強く思うことがあった。それは **JCC(Japanese Culture Culb)** ともっとはやくに出会いたかったということである。彼らと出会ってから、よりハワイでの生活が濃いものになったと感じる。

英語を話せるように、聞けるようになるためにハワイに行ったにもかかわらず、初日は聞きなれない英語を聞くのが嫌になっていた。しかし、日を迫うごとに以前よりも英語が聞き取れるようになっていたり、言っていることを理解することができたり、自分の話す英語が通じたときはなんとも嬉しかった。これは実際に経験しないとわからないと思う。ハワイにいてから決めていたこと、「もっとももっとも英語を話せるようになる、聞けるようになる。そのために日本に帰ってからも、もっとももっとも英語を勉強する、英語に触れる時間を増やす」そして、もっと成長した私でまたハワイに行こうと決めている。飽き症な私がこれを続けるためには、私がこの1か月に経験したことや感じたことを思い出す必要がある。それは私にとって大きな原動力となると思う。そう思えるほどの経験ができたし、感じることや学ぶことが多くあった。これらは、日常生活の中でも私にとって大きな原動力となると思う。こんなに素敵な経験ができたことに感謝しなければならない。私に関わってくれた人みんなにお礼を言いたい。 **Thank you very much!**

いつまでも余韻に浸っていたいけれど、ここは気持ちを切り替えて、日本での生活も充実したと思える毎日を過ごせるよう努めたいと思う。ときにはハワイでのことを思いかえしながら！

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

環境人間学部 2 回生 男子学生

僕はこのハワイでの英語の生活にあまり不安を感じていませんでした。それは英語のスキルに自信があったという訳ではなくただ何とか喋れるだろうと考えていたからでした。それでもハワイに着いて最初はやはり文法が気になってなかなか話すことが出来ませんでした。しかし、ホストファミリーの人と毎日過ごす中で、彼らは僕のでたらめな文法でも理解して会話をしてくれました。そうした生活の中で文法を気にして話をしないなんてもったいないと感じるようになりました。僕はもともと人と話をするのが好きだったのもあり、文法を気にしなくなってからは積極的に英語を使えるようになりました。

たった3週間でしたが毎日英語ばかりの生活にいたおかげで最初と比べて格段に英語を聞き取る能力が上がっていました。日本に帰ってきてから、今までは聞き流してきたCMの英語などもはっきりと理解できるようになったり、英語の勉強をするときに今までは漠然と文字の並びとして見ていただけだったのが、しゃべるときにはどういう風に使うのかを意識し始めたことで以前よりも英語を言葉として認識するようになりました。

ハワイ大学では日本のよくある1対多数で先生の話ノートにとって覚えるような形式ではなく、1対少数でのディスカッション形式の授業でした。日本と違い先生の話聞くだけでなく必ず自分の意見を発表することが求められました。生徒が授業中に自分の意見を発表することはアメリカでは普通だそうで、小中学校では毎授業で生徒が全員発表しないといけないそうです。これは私にとってとてもカルチャーショックでした。

勉強はもちろんですが、自由時間の活動もとても有意義なものでした。オアフ島はとても自然が多く、ワイキキビーチはもちろんノースショアやダイヤモンドヘッド、ココヘッドなどたくさん場所に行きました。野生の亀を見たり、海でシュノーケリングをしたりととても貴重な体験をした毎日でした。さらに、ハワイ大学で活動しているJCCという団体の人と出会い、多くの友達ができました。彼らはとても日本が好きで日本のマンガや音楽などについて語ったり、一緒に遊びに行ったりしました。ハワイの人は皆とてもフレンドリーで、私たちのために比較的簡単な言葉でゆっくりと話してくれたのでとても会話の練習になりました。

僕が今回このプログラムに参加したのは海外の人ともコミュニケーションをとれるようになりたかったからです。この25日間を通して私は外国人と話ができるようになったと思います。しかし、それは新しい単語や文法を覚えたわけではありません。自分は英語がわかる、話すことが出来るという自信を手に入れたからでした。そして同時に、もっと話したいのに自分の気持ちをそのまま言葉にできないもどかしさを感じました。このプログラムが英語を勉強するきっかけになればいいなと考えていましたが、帰ってきた今では英語がとても楽しく、もっともっと勉強したいと思えるようになりました。



## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---



## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---



## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

看護学部 1 回生 女子学生

私は、以前から海外に興味があり、大学生活のうちに行ったことのない土地へ行き、何か新しい経験をしてみたいと思っていました。そのため1回生のうちに、春休みを利用してこの研修に参加することを決めました。私は参加することを1人で決めたため、はじめは友達がおらず、とても不安でした。しかしハワイでは、あっというまに皆と仲良くなり、休みの日には全員でどこかへ遊びに行ったりと、とても素敵な仲間ができました。

研修中は、基本的に平日の午前中はハワイ大学で英語を学び、午後は自由行動でした。午前中の授業は、普段大学や高校で受けるような堅苦しい授業ではなく、先生と生徒たちの対話を重視し1人1人が自由に発言できる、のびのびとしてとても楽しい授業でした。また、先生もとても素敵な方で、約1か月間の授業を終え卒業してからも、もっともこの先生から英語を学びたいと思いました。授業が終わった後、昼食は、大学内のカフェテリアで食べたり、あるいはワイキキなどでハンバーガーやチーズケーキやパンケーキを食べに行ったりしました。ハワイのご飯はとても美味しく、また、スムージーのお店も多くあり、毎日様々なお店に行きました。昼食を食べた後はワイキキやアラモアナセンターでショッピングを楽しんだり、散策に行ったり、海に泳ぎに行ったりしました。夕食は家で、ホストマザーの作ってくれたご飯を食べました。ホストマザーの作る料理はとても美味しく、また、ハワイの伝統的料理も作ってくれました。私のホストファミリーは、小さな子供が4人いて、皆元気でやんちゃで、恥ずかしがることなくいつも私に話しかけてくれました。また、朝は子供が学校へ行く時間に合わせて、ホストマザーが車で大学まで送ってくれました。週末にはたくさんの親子が家に集まり、ホームパーティーが催され、日本とは違う、ハワイの家庭の文化を多く体験することができました。

また、私たちはハワイ大学で行われた **international party** に参加し、偶然にも現地の学生と友達になることができました。彼らはとても気さくでフレンドリーで、すぐに仲良くなることができました。そして休日と一緒にココヘッドに登ったり、海に行ったりと、彼らとの交流をとても楽しみました。これは、旅行だと絶対に経験出来ないことだと思えます。まさか現地に友達ができるとは思ってもみなかったのも、とても嬉しかったです。

私はこの研修を通して、本当に多くのことを経験し、とてもたくさんの刺激を受けることができました。この研修に参加するために様々な面で助けてくれた、自分の家族や、先生方、仲間たちに感謝しています。そして、自分の視野の狭さ、英語力のなさを痛感し、これからもっと英語を勉強しグローバルな視野を持ちたいと思いました。

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

看護学部1回生 女子学生

ハワイ大学研修訪問団に参加して、多くのことに気づき考え反省し、目標、課題を見つけることができた。また新たに自分というものを発見できたと思う。私がハワイ大学研修に参加した理由は元々海外へ行き新たな気づきをするのが好きで、ハワイという日本人に人気のある場所にただ興味があったからである。毎日午前中に通う学校、インターチェンジや野外でのクラス、午後からのフリータイム、ホームステイ先でのホストファミリーや他の学生と共にする夕食、会話。最初の1週間は全てが新鮮だった。英語は2回生になってから約1年間、ほとんど触れていなかった。確実に高校時代よりも能力が低下していること、クラスでいかに自分が積極的に発言できず失敗を恐れているかを実感できた。クラスティーチャーの「女の子は今よりもっと発言すべきだ」の一言で失敗するより何も発言せず黙っておくこと、人任せにすることがいかに恥ずかしいことなのか気づいた頃からクラスに積極的に参加できるようになったと思う。また、クラスで文化の違いについて討論した際には「ここは日本ではない、アメリカだ」と感じることもできた。クラスだけでなく、街でのショッピング中や食事中、家での会話や生活など全ての時間でハワイという場所の持つ独特の文化や習慣、時間を感じ、学ぶことができた。ハワイの持つ時間の流れはととてもゆったりしていた。バスはよく遅れ、ドライバーは途中でトイレに行ったりタバコを吸うために休憩し、お店でレジに多くの客が並んでも店員はマイペースに仕事をやる。日本でオンタイムを礼儀であり常識と考えていた私にとっては本当に衝撃だった。ハワイアンタイムに慣れるまでいかに自分が日本でせっかちにしていたか実感できた。ハワイの人々は陽気で友好的で親切、カメラを持っていると向こうから「とってあげるよ」と声をかけてくれる。たまにポーズを提案してくれる人もいた。ハワイの人々に関わることで自分との違いを感じ、自己を改めて見つめ直し人を尊敬することができたと思う。ホームステイ先では既に日本人留学生が2人住んでいた。研修途中でカナダの学生もひとり来た。家では主に学生同士で会話することが多かった。ハウスルールとカナダ人がいるので会話はもちろん英語である。人の考えを聞き自分の考えを言葉にすること、考えの共有は英語では難しかったがお互いに真摯な姿勢で多くの話題を共有できた。家での会話は英会話の練習になったし自信にもつながった。帰国するころにはみんな仲良くなり、人との出会いに強く感謝した。ハワイ大学研修訪問団に参加して、言語を習得すれば世界は広がり、他人の考えや習慣から自己を見つめ直せるということを学んだ。今までいかに自分が狭い世界で生きてきたかわかり、もっと多くの世界を見てみたいという欲が更に大きくなった。ハワイで過ごした約3週間は長いようでとても短く充実した日々であった。この研修で得た仲間と自分の欲求、課題、目標を見失わないよう大切にしたい。この25日間はわたしにとって多くのことを学べた誇らしい25日間である。多くの方々に心から感謝している。

## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---



## 第4回ハワイ大学研修訪問団に参加して

---

看護学部1回生 女子学生

今回のハワイ研修の全てが私にとって、非常に素晴らしい経験でした。まずは、この研修で最大の目標であった、今まで学んできた英語を実際に生活の中で使うということです。始めはネイティブスピーカーの方達とコミュニケーションを図ることが本当に難しく感じました。長い文章を理解しようとするときに、日本語で解釈しようとするため頭をフル稼働させる毎日でした。また、コミュニケーションを図る際、簡単な英会話の知識しかないために会話が途切れてしまったり、自分の考えや感情を中々うまく伝えられなかったりと、始めのうちは英語を話すことに自信が持てませんでした。しかし、毎日の英語の授業は、少人数制で先生もとても親しみやすく、発言しやすい環境であったため、楽しみながら英語を話すことができ、徐々に苦手意識もなくなっていきました。例えば、クラスメイト同士で英語を使って質問しあったり、一人でキャンパスを歩いてハワイ大学の学生に質問したりと、様々な状況で多くの人達と話す機会をもてるものでした。また、週2回のインターチェンジでは毎回1時間、ハワイ大学の学生とゲームなどを使って会話をするため、様々な人と時間をかけて会話ができ、非常に良い経験になったと感じます。インターチェンジの前の授業では、会話を続けていくためにはどのように質問するか等も学ぶことができ、自信をもってインターチェンジに参加できました。このように、毎日の英語の授業で楽しみながら英語を学ぶことができ、それを実際に使って話すことで、会話のリズムや言い回しなど今まで学んできた英語とは異なった英語を学ぶことができました。そのため、徐々に苦手意識は消え、会話がよりスムーズにできるようになったと感じました。

次にハワイでの生活をとおして、日本とは異なる考え方や文化を体験しました。ハワイの良いところをたくさん知ることができたし、反対に日本の良さを実感することもできました。ハワイでの生活の中で感じたことが、ハワイに住む人達はハワイが好きだということです。研修で多くの人と関わる中で、ハワイが持つ多くの自然や土地の素晴らしさ、人の温かさを感じ、それらが持つパワーを感じました。また、バスなど様々な所で話しかけられるという経験は日本では、あまりなくはじめは戸惑いましたが新鮮でした。ハワイの人たちは明るく社交的な人が多く、それを普段の生活の中で感じました。そのため、日本ではひっこみがちであった性格が、ハワイの生活をとおして積極的に行動できるようになったように感じます。

今回の研修で、私は常に今まで経験しなかった新しいものを感じながら生活していました。この経験は私にとって本当に特別なものです。この研修で感じた様々なことを忘れず、挑戦し続けていきたいと思っています。